

静 中・静 高
関 東 同 窓 会

会報7



T. NAKAMURA

巻頭のことば

会長 宮澤次郎

静岡の新茶のかおりもなつかしい季節を迎え、みなさまのご健康を心からお慶び申し上げます。

今年で私たちの関東同窓会も発足から数えて五年目になります。その経過の中で、本同窓会はその運営の重点を卒業年度の各期毎の連絡、即ち期別の横の連絡と先輩後輩の縦の連絡懇親との二点に絞り、顧問や役員や各期幹事の諸兄が一致協力して大変な努力をして下さったこと洵に感謝に堪えません。

しかしながら、会の実態を見ますと、静岡卒業直後或は大学卒業後の若い年代の各期の同窓生が極めて少数しか会の活動に参加していません。私たちは今後とも若い同窓生諸兄との連絡をなんとかして実現強化せねばならないと切に念願しています。

なにとぞ、会員の皆様、特に若い各期の方々の格別のご理解ご協力をお願い申し上げます。

百年史パロディ

芹澤 正憲 (43回)

つれづれなるままに『静中静高百年史』を繙いてみた。老来不精になって寝ころんでの読書癖が身についている私にとつて、あの橙色の分厚なポリウム感私を圧倒して、つい敬して遠ざけていた。それを敢て繙いた理由は、一言でつくせば、ただただ『つれづれなるままに』としか云いようがない。いつもゴキブリのようにウロチョロしている君の身辺に『つれづれなるままに』というような優雅な時間帯がどこにあるのだ！ といわれるかもしれない。

春日遅々、きょうこの頃の鎌倉は、春祭やらもろもの行事やらで、また大河ドラマ草燃えるのどばつちりもあつてか、ここなら人もいないだろうと山かげにひっそり息づいている古刹をおとずれても雲霞のような人の群れで、折りからのチビッコの学校休みが拍車をかけてアビキョウウカンの若と化し、いまや弁当ガラと空缶の底に埋没しようとしている。

早春の頃成人式帰りのおんなのこたちが、『そのこはたち櫛に流

れる黒髪の子のおごりの美しきかな』の晶子の名歌さながらに八幡さんの参道に裳裾をひるがえしていたあのクリヤーな早春賦はいまやいずこ、たずぬるよしもない。正しく観光公害！ 環境アセスメントの起草者も眉をひそめ上げる珍現象で、なんとかクリーンアップの手がうたれなければ鎌倉から逃げ出すより手がなかりそうだ。

勢い、鎌倉脱出のかわね休日自宅で塾居しての昼寝か、独酌か。こんな昼下り、久しぶりに正座して繙いたのが百年史であったわけである。

『初の普選』と題して五年生吉川要の日記が載っている。『強い

西風の夜、松一本一君一平方歳！ 荷物自動車に乗った魚河岸の若衆が勢のよい声を出して来る』さらにこうした激しい選挙戦にからめて、吉川たちの五年丁組では穴山入遠先生をからかった日記の二月十七日の経である、と註釈して、

『三時限芹沢が黒板に墨汁黒々と政見発表、会場五丁寺、時日第三時限、静岡県第一区僧侶候補穴山入遠』と書いて置いた。入遠曰く『私にうらみがあるのですか』と云った。おかしくなった、と書かれてある。

人ごとのようになにげなく読過したが、『芹沢』とはわが身自身であることに気付いて、思わずハッ！となる。そんなこともあったかなあーと、とつおいつ記憶の糸をたぐってみた。しかし半世紀の星霜は現実を遙か忘却の彼方にかすませている。やがて日記の筆者吉川の律気な顔が浮かんでくる。あの真面目人間の権化のような吉川がヨタを飛ばす筈がない、と意識したとき、俄然歴史の歯車は逆回転を始めた。

五年丁組の教室がほのぼのと賑に再現される。黒板に墨汁でとあるが、それでは判読困難だろうなと思ったりする。これは恐らく吉川の舌足らず筆足らずで、芹沢は

チョークで書いたか、墨汁なら新聞紙へでもなぐり書きして貼りつけたものだろうな、と思ったりする。

授業開始を報ずる小使さんのチリンチリンの振り鐘の音と共に鷹揚に教室に入ってこられたソクラテスのような風貌の入遠先生！ 鉄ぶちの眼鏡の奥からのぞく先生のタカのような瞳は、しばらく黒板にすいつけられていたようだがやおら生徒の方に向き直っておだやかではあるが、しかしげにも厳しゅうにのたまうたものである。

『私にうらみがあるのですか』と。それから鉄ぶち眼鏡を透して射すくめるような鋭い眼光を教室の隅に陣取って級友と共に笑いこけている芹沢の満面にそそいだものだった。『こんないたづらをするのはお前にきまつている』先生の視線からはこんな意味の言葉がエーテルの波動と化して、芹沢の満面に激しく照射される。とたんに芹沢の満面から笑いが消えて顔は引きつったようである。激しい照射に堪えかねて芹沢は目を伏せる。

瞳のやり場に困って、まだ花をつけていない窓外の桜にうつろに向けられていたようである。やがて先生は無言という哲学的作戦に勝ち抜いて勝ち誇ったよう

に、『それでは授業に入りましょ
う』と厳かに宣告してピタゴラス
の定理の解析に入られた。

因みに先生は、その先年まで旧
制弘前高等学校の教授をされてい
た。静中教諭として赴任されたの
は、決して先生の人格や学識不足
のための降格人事ではなく、専ら
先生の希望によるものであった。
というのは、先生は市内寺町のお
寺の後取り住職で、老師が急逝さ
れたため寺と壇家の要望により、
寺管理のため敢て格下げ人事に甘
んじたような態勢をとり、故里の
静中に赴任されたものである。

ここで傲岸な言い方を許して頂
けるなら、先生と芹沢の対決の第
一ラウンドは正にかかるプロセス
をへて先生と芹沢とのパントマイ
ムの応酬で先生の圧倒的勝利で了
ったわけである。したがって、こ
のエピソードは一応の終結とすべ
きだが、先生対芹沢には次のよう
な第二ラウンドとも云うべき後日
譚が残されている。それらを拉し
来てフィナーレといたしたいと思
う。

× ×
百年史の記録ではこの日が二月
十七日で、三月三日が卒業式と記
されているから、恐らく一週間ぐ
らい後の二月二十五日前後のこと

ではなかるうかと思う。

同じクラスの『三羽ガラス』と
呼ばれて学校当局からチェックさ
れ目クジラ立てられていた水野熊
夫（航空情報社長、故人）と、北
里良夫（東電エンジニアリング社
長）と芹沢の三人が連れだって七
軒町桜湯を曲ったところにあった
シナソバヤにチン入して二階の階
段をとんとん上って行った。水野
がおぼしめしのある桃割れの女の
こに『ビール三本になにかおつま
み！あとでシナソバ！』と大声
で注文した。座った隣の部屋から
なにやら読経の声がもれてくるよ
うだ。お通夜のお坊さんがきてい
るがぢきに帰るわよ、と桃割れ。
やがてビールとおつまみが運ば
れてきた。ガマグチをさかさにし
てはたき合った貧乏書生のこと、
おつまみも『煮えきり』か『海ッ
ポ』ぐらいだったろうか。

桃割れになみなみと注がせたコ
ップをカチ合せながらブラボーと
大声を出して一気にかん杯した。
そのとたん、隣の読経の声が止ん
で、ご苦労さまとかなんとかおか
みさんと坊さんのやりとりがきこ
えてくる。突如、芹沢のうしろの
襖がすーとあいた。『すみません
通ります』とおかみさんの声。と
たんに水野がオオカミにでも襲わ

れたようにひどく狼狽してマント
を頭からスッポリかぶったではな
いか！北里は身も世もあらぬ態
でしょんぼり首をうなだれてタタ
ミの上に目を落している。芹沢は
うしろ向きで、なにがなにやら皆
目状況が掴めないのだが、二人の
狼狽ぶりから非常事態勃発と受け
とめて動転していた。『水野君だ
ね、それでは頭かくして尻かくさ
ずだ。ようしろ向きは芹沢君！』
やや間を置いて『卒業だね。祝杯
かね。いいでしょう！』どこかで
聞き覚えのある声。それも天外か
ら響くような凜然としたご託宣。
チラリ盗み見すれば、なんとそこ
には金襴袈裟姿の入道先生がいと
もしゆく然と立っておられるでは
ないか！

いつもの違つて今夜の先生は持
ち前の射るようなタカの目ではな
く、口辺にはモナリザのような微
笑さえたたえて、百人一首から抜
け出してきたような善知識ぶりで
ある。

先生の慈味あふれる温雅な声を
きいて、水野がいくらか安堵した
のか、マントの中からカメのよう
に首を出して、『先生、コンバン
わ！』と取って付けようなチグハ
グな挨拶をする。始めはどうに
もなれと半ばヤケッパチだった芹

沢も、いまは先生のもの分りの良
さに甘えたのか、『先生おひとつ
いかが』とコップを差ししたも
のである。『頂きましょう！君
達の前途を祝して』と先生はぐっ
と一気に飲みほされた。それから
それでは、と貰い立てのお布施を
衣のそでに入れて静かな足どりで
階段を下りて行かれた。

後ろ姿をジッと見つめながら兄
貴格の水野が『ヤレヤレ入道さん
でたすかったわい！オレ達はま
だ生徒の身分なんだ。これが学校
ポリの渡辺ラッキョウか、押取刀
のブーさん大尉であつてみる、た
ちどころにコレだぞ！』と手刀で

静 岡

(後援期) 青木 静男

静岡球場であれ、甲子園球場
であれ、母校が出たときのスコ
ア・ボールの表記は、いつも
ただ「静岡」とあるだけだ。地
元で観るときはちょっと得意な
気もするし、檜舞台では身がひ
きしまる思いがする。出場校に
は〇〇商・工とか、〇〇東とか
〇〇二、とかいろいろが多い。都
市に関係ない名は論外として、
都市の名一ぱつであつたとして

クビを切る仕種をした。われわれ
は身ぶるいしながら、さすがは入
道先生、仏に仕える身の慈悲の心
もたつぶり持ち合せているわい、
などと手前勝手な解釈をしていた
が、溜息をつきながら哀歎の谷間
をさまよううち、いつしか先生の
温い人間像に酔い痴れて敬慕心も
次第に増幅されて、ついには先生
を光背さんぜんと輝く阿弥陀如来
にまで昇華させていたものであつ
た。

桜湯の側溝からもうもうと立ち
上る湯気に、鈴蘭灯がすすり泣い
てるような春の宵であつた。

も、それが県庁の所在地でなか
ったり、所在地の名そのものが
県名とちがついていたりしてうま
くゆかない。

県名と同じの県庁の所在地に
あつて、しかも商・工高でなく
東や西、二や三など余分？のもの
のがつかないスッキリしたのは
少ない。優勝校でこれにあたる
のは高知第(46回)。だけや歌
山中(第7・8回)静岡中(第
12回)は改革前で「中」がつく。
「静岡」とだけかかげられると
名実ともに静岡を代表するもの
として身がしまる。よろしい。

イルカと人間

35 回大村秀雄氏の著書から

編集委員 月見里 得知郎

大村先輩は鯨類研究所長であり長く国際捕鯨委員会のメンバーであつて斯界の権威として有名な方ですが、今年の新年会で、何か原稿を、とお願ひしました所、早速表題の御著書を頂きました。

大変ロマンの香り高い、素人に面白い名著と存じますので御紹介しようと思ひます。

唯紙面の都合から抜萃となり、且何回かに分けねばなりません。折角の名著の味わいを失ひそうで心配です。

では、本書の序章から参りましょう。

はじめに

もう20年以上も昔のことである。一枚の地図を頼りに、私はローマの街を歩いて来た。外国の都市にはいいガイドブックがある。初めての都市に着くと、まずガイドブックを買つて来て、半日はベッドに仰向けになつてこれを読む。大体の知識が得られる。それから行動開始である。地図を頼りに歩けば、たいいていの所は歩いて

緒にいたることもある。

この奇妙な動物がギリシャ・ローマのイルカであつたのであるが私はこれが日本のシャチホコの原形ではないかと考えた。それほどよく似ているのである。よし調べてやろうと考へたのであるが、何分にも本業のある身である。これ専門にとりかかるわけにはいかない。本業の関係で、というのはい。

国際捕鯨委員会の会議はロンドンで開かれる場合が多いから、ロンドンには度々行ったが、ここでも夥しいイルカの群にぶつかった。

そのイルカは、中には写実的なものもあるが、ギリシャ・ローマのイルカと全く同じのものもある。エノンバンクメントといわれるテムズ河畔には電柱がたくさん並んでいて、この電柱はイルカが倒立した飾り物がつけてある。このイルカはギリシャ・ローマのイルカと全く同じである。いつギリシ

ヤ・ローマのイルカが英国に渡つたのか、これも興味のあるところだが、ロンドンの郊外のローマ人の遺跡を見るに及んで、それがローマ帝国の時代、つまり紀元一世紀から二世紀ごろのことであるとを知つた。

日本のシャチホコは中国から来たことは事実である。ではどうし

ていつの時代に、ギリシャ・ロー

マのイルカが中国に渡つたのか、そこら辺のことはまだ正確にはわからない。おそらくシルク・ロードを通過して来たものと考えられるが、確証は何も得ていない。本業ならば、早速実地調査ということになるが、余暇を利用しての、いわばホビー・リサーチであつてみれば、それも出来ない。ギリシャ神話では海の神様ポセイドン（ローマのネプチューン）は、常にイルカを伴ひに連れていて、手に持ったヤスで岩を一突きすれば、忽ちにしてそこから水が噴出する。これがイルカの能力と誤り伝えられて、東洋では、イルカがお城や大建築の大屋根の上に乗せられて火消し役を仰せつかることとなつたものと思ふ。

ダイオニソスとイルカ

イルカ

動物学上イルカは鯨の仲間である。鯨の化石が発見されるのは、地質学上第三紀に入つてからであるが、この鯨（原始鯨）は外形的には、現代の鯨とあまり変わつていない。体は流線型であり、前肢は胸ヒレとなり、後肢は退化してなくなり、尾には尾ヒレが発達している。したがって鯨が地球上に

現われたのは、おそらく中生代であり、少なくとも七千万年以上の昔である。現存の鯨も第四紀に入る前に完成して、氷河期と間氷期が相次いで訪れた洪積世の時代を、陸上の哺乳類と異つて、種として絶滅することなく、比較的楽に乗り切つて来たものと思ふ。それは水という特殊な環境に完全適応したからであろう。この時代に人類が誕生するのであるが人類の手も海産哺乳類である鯨やイルカにはまだ届かなかつたのである。

ただしこれは生物学上の話であつて、ギリシャ神話ではダイオニソスが初めてイルカを作つたこととなつてゐる。ダイオニソスはローマ人からバックスと呼ばれてゐるが、本来は農業、とくにブドウの神様である。それから転じてお酒（ワイン）の神様とされてゐるが、同時に怒りの神様でもある。

このダイオニソスがある時イカリヤの島からナクソスの島へと航海した。ところが水夫たちはいずれも海賊であつた。彼等はダイオニソスが神様であることを知らないで彼を誘拐しようとしてた。船はナクソスを通り過ぎてアジアへと向かつた。ダイオニソスをそこで奴隸として売つたためであつた。ダ



上図 1 ダイオニソスカップ (540 B C)

下図 2 アシストガラテア現代版

イオニソスは其の密謀を知って魔力を現わし、オールを給て蛇に変え、船一面にブドウとツタを繁らせ、しかもフリユートの葉の音で満たした。水夫たちは頭に変調を来たして海に飛び込んだが、そのままイルカに変形して、人間に対して何等の害も加えることのできない動物になってしまった。

これがイルカの起源であり、それまで地球上にイルカはいなかったのである。図 1 はエクゼキアス作のダイオニソス・カップであつて紀元前五四〇年の作であるが、この時の有様を描いたものである。マストを中心としてブドウが一面に生い茂り、海の中には七頭のイルカが泳いでいる。舟自体は古代ギリシヤのガリー船の形であ

るが、よくみるとこれもイルカの方が、よくみるとこれもイルカの方が前方に描かれているのか、後で述べるが、地中海沿岸では人間がイルカの背に乗った話が多く伝わっている。ソフィア・ローレン主演の映画「イルカに乗った少年」もある。あのすべすべしたイルカの背中に乗るためには背ビレは頭の近くにあるに違いない。このように想像したのが事の起こりと思われる。鯨の科学者がイルカ乗りはこうあるべきだと考えて描いた乗り方は図 2 に示した。

この図ではイルカの背ビレの前に、男は跨っているし女は横向きに腰かけている。その代りイルカは人間の足を胸ヒレでしっかりと押えている。それでも不安だと見えて、イルカの口到手綱をかませ

てある。これが科学者の考えたイルカの正しい乗り方である。ただし、この図そのものはギリシヤ神話からとっている。

イルカの背に乗って

この様にギリシヤ・ローマの時代には、イルカと人間の話が数多く伝えられている。

中には有名なアリオンの物語で本書によれば次の様である。

アリオンとイルカ

聖書の中ではヨナが鯨に救助されるが、ギリシヤ時代の最も有名な話は、イルカに救助されたアリオンの物語である。聖書の中では大きな魚とあって、鯨とは明記されていない。多分鯨であろうという事であり、しかもヨナは一旦その怪魚の胃の中に収められて岸に運ばれ、そこで吐き出されて助かるのであるが、アリオンの場合はイルカの背に乗せられて岸に運ばれるのであるから、この方が現実性を帯びている。しかもこの話はシェイクスピアの「真夏の夜の夢」の中に出てくるから、特に英国人にはよく知られている。アリオンは神ではなくて実在の人物だったと伝えられている。彼は詩人であり音楽家であるが、海

賊のために止むを得ず投身自殺を図るが、イルカに助けられて、その背中に乗って無事に陸地まで届けられたのである。

この他古い所では、今日のトルコ西海岸にあったミトレスで漁夫がイルカを網でとつたのをコイラノスという男が助け、後にコイラノスが難破した時イルカに助けられた話。

又ミトレスに程近いイアソスの町のダイオニソスという少年が一頭のイルカと馴れ親しみ、毎日海で遊んだ話。

ローマ時代になると、ナポリに程遠からぬルクン湖という入江があるが、アウグスタス帝の時代に一頭のイルカが入り込んで、バイエル地方の一少年と親しみ、毎日背に乗せてプテリオの学校まで湖を横切って通ったという話。

その他アフリカ北のチェニスからあまり遠くないビゼルトという町でイルカと少年が同様に遊んだ話等が残っている。

以上で述べたように、地中海沿岸各地に、イルカの背に乗って遊んだ少年の話や、イルカと人間の間に生まれた友情の話など、数多く伝えられているのであるが、それは主として紀元前のことであつて、キリストの生誕後は、このよ

うな話はないようである。ギリシヤやローマの人たちも、現実のイルカをすっかり忘れてしまったように思う。絵や彫刻など美の世界では、不思議なことに、古いものほど正しく描かれ、又作られている。ヘレニズムの時代にイルカは彫刻や絵の中に数多く登場するがそれは現実のイルカではなく、物語の中のイルカであり、神話の世界のイルカである。その形は想像の産物であって、現実のイルカではない。

ポセイドンとイルカ

ポセイドンはローマ人のいうネプチューンであって、御存じの通り、海の神様である。このポセイドンとイルカとは切っても切れない縁がある。その初まりはポセイドンのお嫁さん捜しである。ポセイドンは黒い眼をしたアンフィライトを、自分のお嫁さんにするとうと捜したが、なかなか見つからなかった。それを見つけ出してやったのがイルカである。彼女はポセイドンの眼を逃れて海中の洞穴に潜んでいたのであるが、遂にイルカの為に見つけられてしまったのである。ポセイドンはその功を賞して、天にイルカ座を設けたのであった。

ポセイドンはクロヌスとリアの間に生まれた。三人兄弟の中の一で、その兄がゼウスである。父の遺産分配の時、籤引きを行なったが、彼に当たったものは海の王国であった。彼は海中の黄金の宮殿に住んでいた。彼のシンボルは三本のヤスで、いつもこれを手にしている。このヤスで海面をひと打ちすれば、海は忽ちにして狂瀾怒濤となる。彼の魔力は海の中ばかりではない。陸上でも同様である。このヤスで岩をひと突きすれば、忽ちにしてそこから水が噴出する。水だけでなく馬も飛び出させることができる。このようなことから彼は海ばかりでなく、水全体の神様である。彼はさらに地球を支えている男[♂]であって、彼が怒れば地震となる。歴史上の大きな地震で彼のせいになされているものがある。ポセイドンは数多くの情事で有名であるが、その子供は多くは狂暴であった。最初に述べたアンフィライトとの間に生まれたのがトリトンである。トリトンは父と一緒に海中の黄金の宮殿に住んでいた。体の上半分が人間、下半分が魚であるが、いわゆる人魚とは全く別物である。彫刻や絵画の世界では、さらに奇怪な海の怪物と化しているものがあ

る。トリトンのシンボルは巻貝であって、彼はいつもこれを手にしている。彼はこの巻貝を吹いて荒波を静めたり又逆に怒濤を起こさせたりする能力を持っていた。絵や彫刻の世界ではポセイドンやトリトンが屢々出てくる。単独のこともあり、一緒にいる場合もある。それにいつも一緒にいるのがイルカである。彼等は海中の宮殿に住んでいたから、イルカを乗り物としても利用していた。イルカの背中に乗ったり、あるいは二枚貝の殻をイルカに引つ張らせて、その上にアンフィライトが立っていたりする。この二枚貝の殻も絵や彫刻によく出てくる。

ポセイドンは兄のゼウスに似ているが、その顔はゼウスほどの尊厳さはない。トリトンは人間の場合もあり、腰から下が魚の場合も奇な動物の顔までいろいろある。ただポセイドンは常に三本のヤスを持っているし、トリトンは巻貝を手持っているから、容易に見分けることができる。なお星座の中のネプチューン座のマークは、この三本のヤスである。

クノッソスのイルカ

地中海の沿岸各地には、イルカ

をテーマとした絵やフレスコやモザイクや彫刻が実に多い。ギリシヤ・ローマの遺跡を訪ねれば、必ずと言ってよいくらいに、イルカを見つけ出すことができる。これらの中で最も古いものは、クレタ島クノッソスの宮殿の壁画である(図3)。この壁画は紀元前約千六百年の作とされている。鯨の絵で最も古いものはノルウエーのスコーゲルバイエンの洞穴の岩壁に描かれたもので、石器時代のものである(図4)。これを除けばクノッソス宮殿の壁画が世界最古のものである。この宮殿はミノア文明の中心で、ここを発掘したの

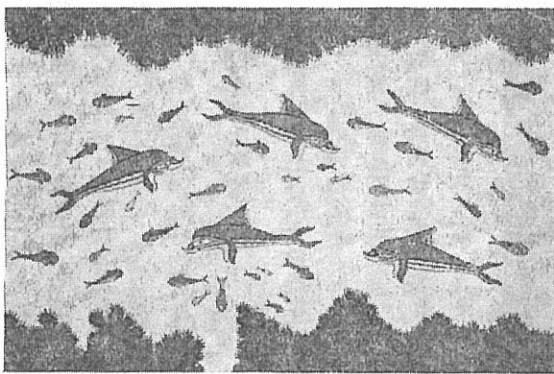


図3 クレタ島クノッソスの宮殿の壁画(フレスコ)(約一六〇〇BC)

は英国のアーサー・エヴァンズである。この宮殿の構造は誠に複雑で、迷宮ラビントスと呼ばれている。

この壁画はフレスコであるが、ここに描かれているイカは正しく描かれていて、魚とは別である。吻はもっさりしているし、胸ヒレや尾ヒレも正しい。ただ背ヒレには、魚のようにヒレ条が何本か描かれている。マイルカとすれば背ヒレの位置が前すぎるが、それ以外は完全なイルカである。いずれにしても約四千年前の作品と考えられないほど立派である。

ヘレニズムとイルカ

ギリシヤ彫刻の世界第4期(紀元前三〇〇年から同五〇年まで)といわれる時代は、一つの大きな進歩をなした時代である。一般にはヘレニズムの時代といわれるが、大きく発展したのはアレキサンダー大王(紀元前三五六〜同三二三)の死後のことである。

ローマの終着駅のすぐ前に、ローマ国立博物館がある。この博物館には多くの貴重な彫刻やモザイクなどが収集されているが、その目玉陳列品とも称すべきものがクキレネのアフロディテ[♀]である。アフロディテはローマ人のい

うビーナスで、この方がわれわれには通用する。この彫刻は一九一三年一月二日キレネ（リビア）で発掘されたためキレネのアフロディテと呼ばれる。残念ながら首と手はないがそれ以外は完全である。この像はヘレニズム時代の初期のものであり、しかもアレキサンドリア学派の手になるもの、又はおそらく、そのローマのコピーであるとされている。ポーズは海から誕生したばかりの女神が、髪の毛の水を振り払っているところである（図5）。

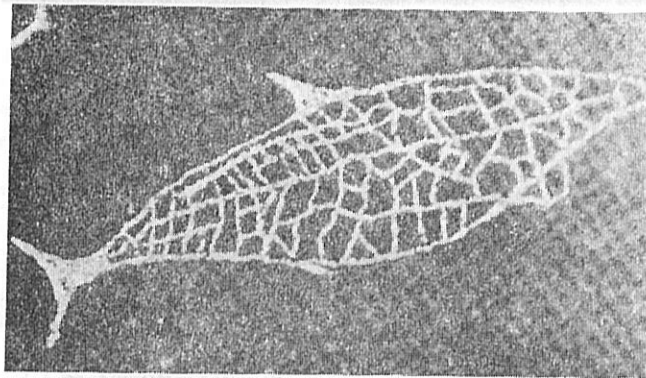


図 4 コーゲルバイエンの洞穴の壁画

私がここでキレネのアフロディテを持ち出したのは、もちろんヘレニズム時代の代表作としてであるが、それは女神そのものではなくて、実はその添え物として、向かって左下に見えるスタンドである。ここに衣が掛けてあるが、そのもの自体はイルカである。このイルカが問題なのである。イルカは逆立ちして、口に一匹の魚をくわえている。このイルカは完全に想像の世界のイルカであって、アレキサンドリア学派もその解剖学的知識は、人体だけであってイルカには及んでいないのである。図6にイルカの大写しを示したが、これはギリシャ・ローマ時代の代表的なイルカである。反り上がった口には魚をくわえているが、頭は大きく丸く、その上に丈が低くて前後に長い背ビレがある。このヒレには魚のように、ヒレ条がある。この背ビレよりずっと後方の尾部にも、同じようなヒレがある。これも背ビレである。つまり背ビレは前と後の二カ所にあるのである。尾ヒレは衣にかくれていてわからない。

いずれにしてもヘレニズム時代のイルカは、現実のイルカからは大きく離れて、完全に物語の中の動物となってしまうている。この

物語の中の動物を、私はギリシャ・ローマのイルカと称したのである。この動物はまずギリシヤに興ったが、紀元前一四六年にコリントの戦いに敗れて、ギリシヤはローマ帝国の領土となるが、美の世界では何等の影響を受けることもなく、そのままローマに引き継がれたのである。イルカも同様であって、ローマ帝国の領土拡大と共に、ヨーロッパやアフリカ沿岸に広く拡がったものと考ええる。さらにこのイルカは東方のアジアへはこれより早く、アレキサンダー大

左図 5 キレネのアフロディテ
下図 6 キレネのアフロディテのイルカ



王の時代に、又その没後ヘレニズムの時代に、少なくともアフガニスタンまで持ち込まれ、それが中国を通じて日本にまでやって来て想像の動物シヤチになったものと考えている。

大村秀雄氏略歴

- 一九二九 東京帝国大学農学部水産学科卒業
- 一九二九 農林省水産局
- 一九五四 鯨類研究所所長

偶 感

静中一年生の頃、五年生がカスリの着物をゾロリと着流して懐手などしていると、ひどくおとなに見えたものであった。

考えてみると、中学五年生といったら、今で言えば高校の二年生だ。それであるのに、どうして、あんなに年代の差や威圧感を感じたのだろうか。

行幸記念の野球試合が近づく連日、サッカー場へ狩り出されて応援の練習だ。五年生のリーダーが「もっと大きな声を出せ」と叫ぶと一年生など縮み上がる。

試合に負けてリーダーがオイオイ泣いているのに一年生は無邪気なものでワイワイ勝手に話したりふざけたりしていたら、「試合に負けて痛恨やるかたない思いにくれているとき一年生はなんたる不謹慎」と怒鳴られ、シュンとして出ない涙を無理して流した。

昔は、制裁など受けると仲々なじめなかつたものだが、先輩は後輩に威張る反面慈しみ、後輩は先輩を畏れる反面甘え、そして、同級生は互に「おれ」「おまえ」で悪態をつきあうのが同窓生ではないかと思っている。

アラビアの地に

十五年を過して〈3〉

鼠入 武夫(52回)

砂漠とアラビア湾
に棲む動物

私は動物学者ではないため、どういふ動物が砂漠の地に生棲し得るのかといった理論的説明は出来ません。しかし、よくこんなところでもいろいろな動物が生棲しているものだと驚かされます。昭和三十三年の春、クウェイト政府と石油利権の交渉をしている時のことでした。ある日の朝、何かざわざわした音で目を覚めました。時計を見ると八時頃です。もちろんいつもなら強烈な日差しがさしこ

から始まったそうで、この長い大列がクウェイトの町の上空を通り過ぎたのは、午後の一時頃でしたから、通過には六時間位かかったことになりました。飛行速度は時速十マイル程と思われ、イナゴの大群の帯は、巾数二百メートル位、地上からの高さは、低い所で十二十メートル、高いところでは二百メートルに達していたようでした。後で大きっぱな計算を見ましたら、少く見積っても数十億匹、ひょっとしたら、百億の台に達していたのではないかと思えます。どうしてこのようなイナゴの大群が襲ってくるのであろうか。又、どうしてこのような大量発生が起きるのであろうか、この辺の事情は解りませんが、発生地はエチオピアの奥地とのものでした。それにしても、アフリカから紅海を飛び越えてアラビア半島南端のイエーメンに入り、次いでアラビア湾の東岸を大挙北上し、更にイラクに入り、進路を東に向け飛びの高山山々にさざざられて、そこで死滅するとのことです。なんでも、七年に一度このような異常発生が起きるとのことですが、これが、通過した二三年は、生みおとしていった卵がかえって、さら

でだに少い緑を食い荒し、時によると家の中に入り込んでじゅうたんにあるいはドアまでもかじることがあるそうで、まさに天災といえるでしょう。このように昆虫が一時に大量発生するという現象は、私がカフジの基地に移ってから二、三度経験しました。スカラベ(日本では朝鮮糞コロガンと呼ばれる)という小型のかぶと虫のような昆虫があり、エジプトでは神の使いとも言われているものですが、ある年これが突然集団発生しました。昼間はあまり姿を見せませんが、日没となると道路一面に出て来るだけでなく、隙から室に入り込み、ベッドの中にもぐり込んで来て、この退治に大わらわにならざるを得ませんでした。このように大量に集団発生したものの生きて行くための食料が準備されているわけではなかったため、ま

ず間もなくゴキブリがスカラベによって食い尽され、次にはお互いに食い合いを始め、集団発生後二週間程で殺虫剤の散布の効果も加わって、ほとんどその姿を消してしまいました。また、ある年は蛾が集団発生し、外灯という外灯は夜になるとこの蛾におおわれ、全く外灯の用をなさなくなったこともありました。しかしながら、こ

の蛾もスカラベの場合と同様、旬日をおいて我々の眼前からその姿を消しました。どうも、この集団発生をする裏には、砂漠の中に点々とはいえている草等の陰に生み落された卵が、必ずしもその翌年、孵化することなく、おそらく発生条件が整うまで数年間に亘ってこの卵が自然の中に放置され、湿度・気温等孵化に適する条件が整った時に、この蓄積された卵がいつせいに孵ることで、集団発生になるのではないかと考えられます。自然にはひとつのサイクルがあつて、このように集団発生した昆虫の全てを支えていく昆虫用の食料は用意されておりません。結局、集団発生したものの、ごく短期間に、そのほとんどが死滅し、自然のサイクルに合った規模でわずかなものが生棲し続けているのではないかと思えます。

私の見た砂漠の動物でいやなものをおあげますと、まず、さそりです。種類を分ければおそらく何種類かに分けられると思いますが、私は大きっぱに二種類に分けていました。ひとつは濃い紫色で体長は五センチメートル以上十センチメートル位までであり、一見猛毒のように見えますが、実際には毒性は弱く、これにやられても二

出来ないものです。この高温のため、アラビアの人達は大体七月の初め頃から九月の初め頃まで休暇を取り、涼しいところで夏を過ごしております。

アラビアにも一応四季はあります。ただ日本の四季と違って、春夏秋冬が四分分されていらないといふことです。いうまでもないことですが、夏の期間が最も長く、日本の夏の気温を基準にしてアラビアでの夏の期間を勘定しますと、大体三月から十月までが夏にあたります。秋と称して良いのは十一月のひと月位のもので、十二月と一月はかなり温度が下がり、時には薄氷がはったこともあります。春は二月ひと月という勘定です。

雨は最初の頃は、三月に入ると降らなくなりその年の十二月にならないと雨が降り初めないという状況で、九ヶ月位一滴の雨もなかったこともありました。最初の頃は、年間の降雨量は大体百ミリ位（日本の平均降雨量の十分の一以下）でしたが、我々が仕事を始めてから次第に雨の降る量も増え、また雨の降る時期が長くなって来たような気がしております。ここ数年間は雨の降り始める時期は特に変わらず、大体十一月の終り頃です。雨が五月になっても降ったこ

ともあり、また夏に雲が出て夕立ちのような降り方をしたこともあります。これは私なりの勝手な見方ですが、石油の開発と生産が急速に伸びたため、アラビア半島の東側で燃やすガスの量が以前に比べて非常に増え、不完全燃焼によるカーボンが空中に浮遊する量が増加し、これが高温のため発生して来る水蒸気が雲となる核となって働き、雲量が増えて雨を降らせる結果になっていっているのではないかと思っています。今から十年程前のことですが、イランの内陸のガス田で掘削中の井戸が事故を起こし大火事を引き起こしました。たまたまテヘランに行かなければならないことになったために小型機をチャーターし、カフジの基地から飛び立って、途中出国入国の手続きを行い、ついでのことと思ひ、この火災現場の上空附近を飛んで見ました。地上から百メートル以上と思われる火の柱が立っておりその上は多少白い煙が漂っている状況でしたが、更に上の方には、ちょうど原爆によるきのこ雲のような形の雲がまっ青な青空の中にかんではいるのが見えました。アラビア湾の海水の塩分濃度は、通常の海水のものより一割以上も多くなっておりますが、これは強烈

な太陽熱による蒸発によるもので、従ってアラビア湾を取り囲む周辺には、他の地域よりも多い水蒸気が存在することになります。この水蒸気は通常雲を作る核がないため、風に流され飛散してしまします。この火事の例でわかるように、核さえあればそこに雲が作られることになる訳です。この事実を見たことがアラビア湾での降雨量が増えて来たことと、雨が降る期間が長くなって来たことが石油の増産にその原因があるのではないかと考える上のヒントになった訳です。

アラビアの雨は、しょぼしょぼ降るといったものではなく、ほとんどのシャワーの形です。一方アラビアの町の都市造りには、排水の觀念がほとんど取り入れられておりません。このため、いったん雨が降ると雨水の逃げ場がなくなり、道路そのものが排水溝となり、交通途絶の事態を引き起こします。また、今ではほとんどその姿を見ることが出来なくなりましてが我々が、最初にアラビアに出かけた時には、まだ、いわゆる粘土で作った家はかなり残っていました。そこへこんなシャワーが降れば、時には家が融けてなくなってしまう融失という現象も起きたと聞いております。さしずめ、日本であれば流失となるところでしようが。

十一、砂嵐と竜巻き

砂漠につきものと言えば砂嵐です。私はアラビア湾岸に住んでいいため内陸奥地の砂漠の砂嵐には出会ったことはありませんが、この海岸沿いの地域でも砂嵐の洗礼は避けられません。アラビア湾岸では、五月頃起きるシャマールと称する砂嵐があります。これはイランの方から吹き込んで来る北風によって砂が巻き上げられる砂嵐で、時には一週間も続くことがあります。この時は室の中まで砂が吹き込んで来ますし、陸上での交通は危険を伴うことになり止めざるを得ないことにもなります。毎年従業員の中に自動車事故による不幸が起きておりますが、その多くはこのシャマールの時期に起きております。もうひとつは冬の時期にこれまた北風によって生ずる砂嵐が襲ってまいります。この時期は、たまたまインド洋から大きなうねりがアラビア湾内に入り込んで来る時期に当り、この北風により高波が立ち、しばしば海難事故を起こします。この砂嵐

があるといつも感ずるのは、ガルビヤと称するアラビア服がまさに生活の知恵から生まれたものであるといふことです。砂嵐が吹いて来ると顔や手など外にさらされているところは、砂が遠慮会釈なく吹きつけて、とうていまともには立っておられません。アラビア服は御存知の方もあると思いますが全身をおおっており、頭にはアママという三角巾の親玉みたいなかぶりものがあるためこれで顔をおおえば、砂の直撃を避けることが出来る訳です。

私は二度、砂嵐ではありませんが竜巻きにぶつかったことがあります。竜巻きといっても、エネルギーの密度が集中している竜巻きではなくて、直径が数キロメートルあるいは十キロメートル以上にある円筒形のもので、最初に互る円筒形のもので、最初にこの竜巻きを見たのは今から十数年前、サウジアラビアのダンマンという町からカフジへ戻って来る途中でした。(つづく)

(写真説明) 顔写真は筆者。

文中の写真は沖合42キロメートルにあるカフジ油田のすべての油井と四つの集油プラントの操作をボタン一つで行なう遠隔操作システムで今から20年前に世界で初めて採用されたものです。

三日痛む程度のようなです。もうひとつは、白っぽくて三センチメートル位の小さなものですが、これの方は大型のものよりも毒性が強いと言われております。それでもアラビア半島のさそりの毒性そのものは比較的弱く、前後二十年滞在していた間に、さそりにやられて死んだという例は耳にしませんでした。

毒性が強いと言えば、通称アラビアコブラと呼ばれるヘビがおります。これは体長一メートル位ですが、長さの割に胴が太く、頭部には髭がはえています。これにやられるとしばしば死に至ることがあり、アラブの人達はこのヘビを見つけると、目の敵にして何をさておいてもこれを殺します。とかげも砂漠の中に穴を掘ってこの中に生棲しております。色は保護色で、体は大きいになると50センチメートル以上はあり、砂漠に住む遊牧民にとっては貴重な蛋白質源になっております。はりねずみも良く見られ、一度これをつかまえて来て食物をやって飼い慣らそうとしたことがあります。どうしても野性がぬけず失敗に終わりました。

よりませんでした。さりとして、人を恐れる様子もありませんでした。あるいは人を恐れないのは、暑い所なのでつかまえられる襟巻きにされる心配がないためだったかもしれません。

話を海に移してみましよう。クウェイト研究所の依頼によって行った東京水産大学の調査によると



人が最も珍重する魚は月本ではハタと呼ばれ、アラビア語でハムールと呼ばれる魚と、アラビア語でズベイデイと呼ばれるマナガツオです。このズベイデイという語は「最もうまい魚」という意味だそうで、クウェイトの魚市場にいても仲々手に入りません。これが入荷すると、ホテルとか金持ちが

数種類の魚がアラビア湾には生棲しているとのことです。我々が良く魚屋で見かける、鯛、鱈、イカ、鮪、鱈、海老、ハタ、マナガツオ等はアラビア湾でもとれ我々の食卓にもほりますが、ハタ、マナガツオ、イカ、海老、鱈等を除くといずれも大味で、決して美味とは言えません。アラビア

には小柄のものが多く、我々が海の仕事を始めてから二十年の間は鱈による事故は一度も起きておりません。もともと南のアラムコという会社では従業員が鱈に喰われたこともあって、海水浴場は金網が張られて鱈の侵入を防いでおります。

海へビは体長一メートルまではありませんが、黄色い縞がついていて、見るからに毒へビという恰好をしております。この毒へビに咬まれたという例は私の滞在中に一件ありましたが、特に生命には異常がなかったように聞いています。

日本は貝を大変好みます。この貝はアサリが主ですが、アラビアでは誰もとるものがないかったため、最初のうちは手近かな浜辺で三十分もあればバケツいっぱいになる程とれました。しかし日本人家族が移住して来るにつれ、どうも乱獲をしたようで、手近かな浜辺では十分とれなくなり、最近ではアサリとりのために遠征までしているようです。

アラビア人にはこの貝を食べるという習慣はほとんどなく、わずかに最下等のアラビア人が食べるに過ぎないとのことです。日本人が貝を好んでとって食べるという

ことを彼等は知って、「何だ、日本人は近代文明国民だと聞いていたが、アラビア人でも食わない貝を食う人種なのか」と言って驚いておりました。

十、気温と雨

私が住んでいたカフジという所は緯度で言えば北緯二十八度で、日本で言えば奄美大島位にあたります。ですから、いわゆる熱帯ではない訳です。ところが、気温となると一番暑い七月には摂氏四十五度、あるいはそれ以上にもなる日があり、日本ではとうてい想像出来ない気温になります。現在は冷房装置が普及してきたため、室内にいれば、この灼熱地獄は味わわなくて済みますが、屋外で働かなければならない者にとっては、この高温度は悩みの種であり、苦しみの素です。ただひとつの救いは、これだけ温度が上がる時期には湿度が比較的少ないということです。カフジは夏場は比較的低温度であります。アラビア半島の南の方のカタール、アラブドビ、ドバイ、オーマンに行きますと、湿度と温度とが共に高くて、丁度蒸し風呂に入っているような恰好になり、これ等の国で働いている人達の苦痛は、とても日本では想像

出来ないものです。この高温のため、アラビアの人達は大体七月初め頃から九月の初め頃まで休暇を取り、涼しいところで夏を過ごしております。

アラビアにも一応四季はあります。ただ日本の四季と違って、春夏秋冬が四分分されていないといふことです。いうまでもないことですが、夏の期間が最も長く、日本の夏の気温を基準にしてアラビアでの夏の期間を勘定しますと、大体三月から十月までが夏にあたります。秋と称して良いのは十一月のひと月位のもので、十二月と一月はかなり温度が下がり、時には薄氷がはったこともあります。春は二月ひと月という勘定です。

雨は最初の頃は、三月に入ると降らなくなりその年の十二月にならないと雨が降り初めないという状況で、九ヶ月位一滴の雨もなかったこともありました。最初の頃は、年間の降雨量は大体百ミリ位（日本の平均降雨量の十分の一以下）でしたが、我々が仕事を始めてから次第に雨の降る量も増え、また雨の降る時期が長くなって来たような気がしております。ここ数年間は雨の降り始める時期は特に変わらず、大体十一月の終り頃です。雨が五月になっても降ったこ

ともあり、また夏に雲が出て夕立ちのような降り方をしたこともあります。これは私なりの勝手な見方ですが、石油の開発と生産が急速に伸びたため、アラビア半島の東側で燃やすすガスの量が以前に比べて非常に増え、不完全燃焼によるカーボンが空中に浮遊する量が増加し、これが高温のため発生して来る水蒸気が雲となる核となって働き、雲量が増えて雨を降らせる結果になっているのではないかと

思っています。今から十年程前のことですが、イランの内陸のガス田で掘削中の井戸が事故を起こし大火事を引き起こしました。たまたまテヘランに行かなければならないことになったために小型機をチャーターし、カフジの基地から飛び立って、途中出国入国の手続きを行い、ついでのことと思ひ、この火災現場の上空附近を飛んで見ました。地上から百メートル以上と思われる火の柱が立っておりその上は多少白い煙が漂っている状況でしたが、更に上の方には、ちょうど原爆によるきのこ雲のような形の雲がまっ青な青空の中にかんで見えるのが見えました。アラビア湾の海水の塩分濃度は、通常の海水のものより一割以上も多くなっておりますが、これは強烈

な太陽熱による蒸発によるもので、従ってアラビア湾を取り囲む周辺には、他の地域よりも多い水蒸気が存在することになりますがこの水蒸気は通常雲を作る核がないため、風に流され飛散してしま

います。この火事の例でわかるように、核さえあればそこに雲が作られることになる訳です。この事実を見たことがアラビア湾での降雨量が増えて来たことと、雨が降る期間が長くなって来たことが石油の増産にその原因があるのではないかと考える上のヒントになった訳です。

アラビアの雨は、しょぼしょぼ降るといったものではなく、ほとんどがシャワーの形です。一方アラビアの町の都市造りには、排水の観念がほとんど取り入れられておりません。このため、いったん雨が降ると雨水の逃げ場がなく、道路そのものが排水溝となり、交通途絶の事態を引き起こします。また、今ではほとんどその姿を見ることが出来なくなりましてが我々が、最初にアラビアに出かけた時には、まだ、いわゆる粘土で作った家がかかり残ってしました。そこへこんなシャワーが降れば、時には家が融けてなくなってしまう融失という現象も起きた

と聞いております。さしずめ、日本であれば流失となるところでしようが。

十一、砂嵐と竜巻

砂漠につきものと言えば砂嵐です。私はアラビア湾岸に住んでい

たため内陸奥地の砂漠の砂嵐には出会ったことはありませんが、この海岸沿いの地域でも砂嵐の洗礼は避けられませんでした。アラビア湾岸では、五月頃起きるシャマールと称する砂嵐があります。これはイランの方から吹き込んで来る北風によって砂が巻き上げられる砂嵐で、時には一週間も続くことがありま

す。私は二度、砂嵐ではありませんが竜巻きにぶつかつたことがありません。竜巻きといっても、エネルギーの密度が集中している竜巻きではなくて、直径が数キロメートルあるいは十キロメートル以上互る円筒形のもので、最初にこの竜巻きを見たのは今から十数年前、サウジアラビアのダンマンという町からカフジへ戻って来る途中でした。

(写真説明) 顔写真は筆者。文中の写真は沖合42キロメートルにあるカフジ油田のすべての油井と四つの集油プラントの操作をボタン一つで行なう遠隔操作システムで今から20年前に世界で初めて採用されたものです。

各 期 便 り

四二回

春の一泊旅行は岩崎君の肝入りで三島竹倉温泉錦昌館と決まり四月十一日午後から十七名が参会した。幹事としては五十六名に通知を出し、五名の返信のないのが気がかりだったが、参会者はいづれも元気で、例によって佐世保から根井君、仙台から国分君、名古屋から増田君の参加があり、五時半大広間で森会長挨拶の後、宴会に入った。三島から美形五名の接待で若返って談笑しきり。八時頃になつて漸く舞台に出る様になり、根井君の入隊話をトップに、全員が歌い且つ踊つて最後に応援歌、校歌の大合唱あり、自室に引き上げたのが十二時を少し過ぎていた次第。翌朝は朝食後再会を期して散会した。参会者は前出氏名の他に岩波、齊藤、宮崎(達)、宮崎(忠)、萩原、遠山、針谷、村松中島、加藤(正)、堀。

尚「天下の江の島会」を九月九日に開催すること村松君より連絡あり。この紙面を借りて宣伝する次第。(井出多米夫)

四三回

母校創立百周年の記念行事や卒業五十周年の四三会静岡大会などで、あわただしかつた年の縮括りに忘年会を兼ねて東京四三会を開いた。

久しぶりに去る十二月八日虎の門共済会館で開催した。年末ともなれば年配には掛り合いなく多忙な方も多くて、仕事や会合などで当日欠席も出て、静岡勢を加えて十五名が出席した。

島田君の開会に始まり静岡小杉君の挨拶、乾杯の音頭で一同の健康を祝して宴に入った。母校祝典や四三会五十周年記念クラス会の話題に話はずみ、静岡堀田君の行つて来た宇宙科学博の様子や芹沢君の西表島紀行の苦心談にも花が咲き、小河君からも甲子園大会優勝の裏話も出て話はつきず、楽しい一刻を過ごした。

出席者は左記の通りである。静岡より磯谷幸一郎、小杉一、堀田利郎。関東在住、今井志郎、小河直人、清水正照、島田富治雄、芹沢正憲、田崎茂夫、長戸寛美、

西沢純三、三宅静雄、三好由三郎、柳沢保雄、山村忠雄。

吉江、小川、池谷、山下、山家の諸兄は当日急用にて欠席となり、国友、倉沢、井沢、豊島の諸兄は所用にて欠席された。

四三会は今年で卒業五十一年目のスタートについた。関東勢は合計二十七名である。(西沢純三)

四五回

昨年の関東同窓会総会の後で柏木君から「齊藤鍊一君の消息(柏木在住)がわかつた」との連絡があり、卒業以来初めて同君の声を電話して聞くことができた。また

昨年百年祭の際静岡市で開かれた同期会に宇佐美安行君(二年生のときその年新設された富士中に転校、港区在住)が出席して仲間入りした。さらに、その席で村松圭三君から黒田朋彦君と松林晋一君の住所を知らされ、帰京後関東同窓会の会報第六号が刊行された折両君に送付したところ、黒田君から電話があり、次の機会にはぜひ集りに出席したいとのことであつた。

これで関東在住の45期生は23名の連絡がつくことになった。去る二月七日田代正君のお世話で開かれた六本木のIBクラブで

の45期会には、青木栄、伊藤敬三、大石清、柏木千秋、桜井誠、鈴木弥門、竹下定吉、田代正、田附敏三、堀正治の十名が集つた。飲んで、食つたりの中で、在学時代の思い出やその後の友たちの消息

などに話の花が咲き、楽しい一時を過ごすことができた。一部の者たちは別室で麻雀卓を囲むもあり大部分が既に責任ある仕事を離れているので、このような会を今後

(鈴木弥門)

四六回

昨年初夏の同級会は、青木君の御世話を得て、池袋の料亭で開き

出席一〇名。会の出席は、はじめてという中田君も現れ「お前誰だ?」の声もあった程。懐旧談に花を咲かせた一夕でした。この様な会で、常に考えることだが、皆忙しい。時間の都合がつかない。場所が遠くて間に合はない等々。しかし、皆の顔は見たい。A君は元気か?、B君と相談があるのだが

……、C君の家族はどうしているか?、何とかならないか。といった話です。そこで思い付きだが、ユニークな方法があるので御紹介したい。

東京在住者が多いので、例えば銀座、渋谷、新宿等、一、二の交通便利な場所の一杯屋とか喫茶店とか決める。時日もまた毎月一回

第二木曜とか第三土曜とかの午後六時から七時と定める。東京の同級生が二、三十人もいると、誰かしらここへ現れる。連絡もとれるし、ニュースも入る。意見が一致すれば、二次会も出来る。次第に「あそこへ行けば、誰かが来ていて、話ができる」ようになってくる。これに似た方法で、小生の場合は、渋谷の一杯やで月一回の土曜日に、必ず二、三人は集り、一応成功している。顔ぶれも時々変わる。

幹事が毎月手紙を出す必要のないことも助かるし、大勢集るときも、一杯やへの出席者が手分けして連絡するので、これも助かる。若い人は既に充分御承知の方法だろうが、老人組も若がえりの手段として、ひとついかが?

(阿部俊一)

四八回

昨年十月母校創立一〇〇周年記念式典が盛大に挙行されその感激は今も尚強く残つて居るが、暫らく振りて二月二十三日東京在住グループの会を有楽町の日本倶楽部

で午後六時から開催した。

当日は雨であったが、近頃にな
い多数の出席者であった。出席人
数は十八人。特に、今回初めて出
席した高須君を迎えての会の空気
は一段と盛り上がった。高須君は
木材、林業関係の仕事に多年の経
験を積み、現在東京農工大学の講
師もされて居るとの事。又我々の
同窓・影山君は昨年アルジェリア
えフランス語の語学力を買われて
日本企業の現地活動部隊の一員と
して赴任されて居るので、同君を
激励するため出席者全員で寄書を
行った。毎日の新聞紙上を賑わす
アラブへ単身赴任、健斗されて居
る同君の健康を祈る次第です。

杉本君が「思い出の静岡」と言
うスケッチ画の本を持参してくれ
たので、昔の懐かしい母校、県庁、
七間町、浅間神社等々のスケッチ
と文とに依り昔の思い出に花が咲
いた。

有志ゴルフ会は四月十四日、佐
倉カントリーで開催と決定。

当夜の出席者 太田、福永、山
崎、高須、近藤、鍋田、寺尾、原
崎、黒水、杉本、河村、松岡、徳
山、工藤、飯田、加藤、北村、大
橋。

(大橋広世)

五〇回

東京近辺に在住の静中50期生の
同期会を四月二十七日数寄屋橋の
東芝ビル八階のレストラン四季で
開いた。ほぼ一年半ぶりの集りだ
った。幹事は江川文治君と鈴木勇
君の二人。集まったのは両幹事の
ほか大庭富士夫、一一彦、梶原忠
治、久保田勲、富田秀雄、中村忠
次、丸尾文治、峰田静夫、村松喬
村瀬重利、山田喜志夫、大庭左文
伊藤丈夫、永田徹、浅賀博澄の十
七名。

50期という昭和10年の卒業な
のだが、集った中にはそれ以来は
じめて顔を合せたなどという者同
志もあって、互いにしげしげと顔
を見て「そういえば、やっぱり昔
の面影があるネ」などと話し合う
有様だった。四十四年ぶりに会っ
たというわけで、考えてみると50
期生も年をとったものである。な
お50期生はだいたい大正6年生れ
だが、大正6年は明治50年だそう
で、それが50期で昭和10年卒業と
いうわけで、たいへん区切りがい
いのだそうである。

久しぶりに集ったのだから互い
に自己紹介をしたがみんな60才を
越しており、ほとんどが第二の人
生を歩んでいる。大学教授だった
り役人だったりした者は定年退官
の後、私大の教授になっている。

会社を定年になった者は子会社の
役員についているという状態で、
みんな盛大に暮している模様であ
った。これはそれぞれみんなが実
力で生きてきた証拠であって、そ
こに静中卒業生の底力があるとい
えそうである。そしてそこでのみ
んなの一致した意見は「甲子園で
一回戦で敗退するようじゃダメ。
もっと性根を据えてガンバレ」と
いう、静高現役に対する注文だっ
た。この「老翁心」は無理な注文
ではない。静中・静高を愛する気
持の現われなのだ。夜十時まで語
りあって最後に校歌を合唱し、再
会を約して別れた。(村松喬)

五三回

皆さんお変わりありませんかと
言るのが普通なのでしょうが、我々
も昨今曲角とやらにさしかかっ
ているらしく、大分異動が見えま
す。名簿に御注意下さい。で、今
回は最近の消息を紹介します。

昨年八月、景山君、畔柳君がそ
ろって愛知県に移りました。景山
君は岡崎の三菱自動車教育センタ
ーへ、留守宅は前通り。畔柳君は
大同興業へ、住所は安城に市変り
しました。

静岡の方でも、長嶋鋼典君が広
島県から磐田郡佐久間町の山香診

療所に転じ、杉村秀喜君が定年で
静岡に帰りました。

関西支部で活躍中の志田清君は
定年後浪人して居たが、この四月
から凸版印刷の顧問と言う形で仕
事が決った由。

奥野君は先年手術の後が胃と十
二指腸の接続要修正との事で、二
月十五日再手術、結果良好の由で
既に仕事に復帰しています。

大石巖君は御承知の如く新日本
証券社長に就任、一月二十二日ホ
テルオークラで華々しく披露を行
った。先はおめでとう。お祝いを
兼ねて級会を計画しているが、仲
々日程の調整が難かしい様です。
その内お知らせしますから皆で集
りましょう。(月見里得知郎)

五四回

五月十九日、熱海の「新かど旅
館」で五四季会が催されることに
なり、仕事の合間を見つけて駆け
つけた。

通知に指定した「こだま」には
間にあったが、事故のため三分
遅れて熱海へ到着。土曜日のこと
でタクシー乗場は長蛇の列。あき
らめて電車で来宮へ。

地図によると訳近くらしいので
地図を頼りに歩いて行ったが、さ
っぱり、それらしい旅館が見当ら

ない。やっと探し当てたら、会は
もう始まっていた。

部屋で着換えをすませて宴会に
参加したが、関東からも次の諸兄
が顔を見せていた。安東、居初、
大畑、佐野(金刺)、柴田(今井)
八木、山田(幸)の諸君と前橋か
ら黒岩君の参加があった。高井君
と範平さんが急に不参加になっ
たのは残念だった。

長居君はレイテ島から帰った時
は三十六キロまで痩せていたそう
だがいまやデブっブリ太った白髪
の好々爺といった感じ。栗田、鷲巢
友広などといった連中はまったく
変りはなく、すぐにでも見分けが
つくが、平川周作、小淵耕司等の
諸君は一度で当てることはむずか
しいだろう。

一泊旅行の良さは、時間の制限
がなく、深更に至るまで語り合え
ることだろう。月並な言葉だが、
悪童の昔にかえって話は尽きず、
時間のたつのを忘れた。東京と静
岡の両方に近い所という利点を生
かした試みだから、次の機会には
関東勢も大いに集まるうではない
か。

五六回

最近私はやりつけぬ二つの新た
な経験を持った。一つは今やはり

(庵原)

の早朝マラソンというやつだ。学生時代はスポーツに自信があった我が筋肉は、数十年の怠慢でやわやわになっていた時だけに、突然のしごきにさぞ驚いたことであろう。兎も角昨年の九月末から早朝起床、実行に及んだ。早朝の戸外にとび出すと近隣の洗足池の廻りを数多くの老若男女が走っているではないか。途端に気持だけは斗志に漲った。されど数十年の怠慢による脚力の低下は蔽うべくもない。若い男に追い抜かれる時はあきらめの境地で何の抵抗感もないが、同年以上の、ましてやおとしより、女性に抜かれる時の屈辱は大変なものだ。敵はスタスタこちらズドズド。息は切れ足は痛む。この様な状態から出発し二ヶ月過ぎる頃は嘗っての屈辱感もすつとんでしまった。何故なら、当初のズドズドがスタスタに近づいてきたからだ。

三ヶ月過ぎ、腹もいくらかへっこみ体重も五キロ減、同時刻に出くわす仲間のコミュニケーション、いま迄目に入らなかつた住宅街の花木の鑑賞、これみな三ヶ月の実績の副産物である。ここまでくればすべて順調、標準体重迄あと七キロと迫つたのに、新年早々、第二の経験に突然出くわしてしまつた。ギックリ腰というやつである。名称からして愛嬌があるので他人も余り同情してくれない。他人の時は笑っていたのに自分が経験して見ると痛いの何の、寝返りも出来ない有様。ここで生れて始めて、鍼灸、指圧とやらに御厄介になる始末。その上これと聞きつけた悪友達が中国の湿布薬とか灸等を手に手に我が家にどやどややって来た。見舞というよりいびりに来たと表現した方が正確であろう。呻吟する私の背中に湿布薬を塗りたくる者。あちこち温灸をやる者。御蔭で小生の腰から背中にかけて真赤に変色ヒリヒリムズムズ。この様な迫害から一日も早く逃れるべく治療に専念、約一ヶ月途りでこの痛みより解放された最近である。然しこの間、いびられ乍らの友情というもの深くかみしめ、ほんとに有難いと思つた事はない。暖くなったら第一の経験にそろそろ戻らなくては。

五七回

(奥野 進)

ゴルフの世の中に何となく抵抗してきましたが、三年ほど前からゴルフを始めました。まさに五〇の手習いです。直接の動機は、急に体重がふえ出し、何か運動をし

なければいけないと考え、ランニングをしてみました。ところが、寄る年波で身体に強すぎる感じが、あり、これまでの無駄な抵抗をやめ、ゴルフをしてみようということになったのです。

生来の不器用で、ウッドがともかく使えるようになるのに一年かかりました。それまではティンヨットもアイアンの五番でした。アブローチはことのほか下手くそで、ホームランかショートかどちらかです。バットもまた大変で、苦勞しています。

これまでのベスグロは、六一、五四の一一五ですが、これは例外中の例外です。六〇を切ることを目標にコースに出ています。はじめの頃は、大勢のギャラリイがいる中で恥をかくことだけが頭にあり、景色の良さなどは目に入りませんでした。これでは健康にむしろ悪いのではないかと思いましたが。この頃はどうか風景が少しは記憶に残るようになりました。

中学卒業以来、悪しき同窓生の代表みたいな人間で、同窓会の運営に腐心しておられる幹事の方々に申しわけないと思つておりましたところ、筆をとることをすすめられ、安請合いましたのですが、ど

うにもまとまりません。そこで下手なゴルフの話で穴埋めさせていただきました。ご寛容を乞う次第です。(影島利邦)

五八回

去る二月下旬、日経新聞「交遊抄」欄に旧友杉山弥太郎君(専売公社関東支社長)の「情熱の魂衰えず」を何気なく発見、懐旧の念にかられた。在京同期生も数十人は居るが残念ながら会合は無い。齢五十を過ぎ人各々責任ある長として会合の暇も見出すことも困難とは思ふが、一洙のわびしさを覚える。

猪瀬兄とは幹事会の帰路交す杯にてささやかながらの懐旧談に花を咲かせる。人間到る処青山在りとは言え旧友は有難い。甲子園の母校の出場に目頭を熱くするのも齢のせいだろうか。

私も東京に定着し部下の仲人も十組近く持ったが、四月に挙式のカップルは同県人となると自から熱も入る。雑種の多い職場を見てつくづく感ずることは、静岡県人は事業愛に燃え正義感に強い反面好人物であることは虚を衝かれやすい。

型」が増え「イライラ型」が減少してはいるが一方「ユウユウ型」が約四分の三も占めているという事は、所謂「天気屋」が多いということ、社会に対して不満をもっているとも言える。非常に危惧すべき事象と思う。長男も今春より社会人として出発したが、少くとも親子に背くことはない信じている。

親子の対話、これこそ、学園生活では得られぬ貴重な人生学と思う。「静岡県人ここに在り」と頑張ってもらい度い在京各位の隆盛を望むや切。(田熊博邦)

カクテル光線に一筋の打球が無情にもライト萩原の前に落ちた。その瞬間孤独なマウンドを一人守り抜いた太田智投手は両ヒザを折り曲げくずれ落ちた。そして息づまる二時間三十二分の投げ合いは劇的な幕切れとなった。アルプススタンドに陣取つた吾々応援団は一瞬放心するや私の脳裡には昨年夏の二回戦対熊本工大高と延長十三回迄戦つて涙を呑み、更には、第五十五回の夏の大会決勝で九回裏広島商のスリーバンドスクイズで優勝を惜しくも逸した時のシーンが、再び浮んだ。今回の敗因に

五九回

(田熊博邦)

ついで野島監督はバンドの失敗を第一にあげている。そして夏迄にはバンドを含めて、一点を取れる形の野球を身につけて、再度甲子園にやって来ると固く誓ったそうだ。

これこそ高校野球の勝利へのセオリーだと吾々も痛感した。選抜優勝の箕島野球は、まさにピカ一だ。今年度から吾々が59期生が、後援会を担当。会長(河瀬卓二)副会長(志田昭八、鈴木勇雄)。

関東支部でも協力を強化する意味で、私も役員の末端を汚すはめになった。今回、甲子園に私がはるばる乗り込んだ所以もここにあり。試合の内容については今更述べることは更々ないが、唯一つ関東支部の諸兄にお伝えしたいことは、甲子園のアルプススタンドに

関西・中部の各同窓会の応援団旗が高々とひるがえっていた光景である。是非共夏の大会には関東支部の名前の入った大応援旗を送り込み、声援をしたいものである。これこそ必ず深紅の優勝旗が再び母校静高に戻ってくることにつながるであろう。

切にこの事を念願し御協力を乞う次第である。

最後に母校野球部の岳南健児の意気を夏の甲子園で吾々の目の前

で示してくれることを心から念願する。(奥沢 徹)

六〇回

毎回この会報を通じて、各地区同窓会や同期会の活動が報ぜられているが、わが60回として今回は知られざる一面を紹介して見たいと思う。

60回というあの終戦の直前、相次ぐ空襲と混乱の中で卒業を迎えただけに、その後の消息音も途絶えること久しく、未だにまともに欠ける所がある。だがたまた一十年前余り前から静岡に小さな灯をともし続けている。それは毎月の十六日にきまって開かれるささやかな会合である。

静岡在住の親しい者だけの輪が次第に広がり、今では周辺まで含めて常時十二、三人、多い時は二十人を越す顔が並べられる。

場所は静岡市山崎の磯谷恵一君宅、夜八時頃から、各自気ままに集まり勝手に散ってゆく。二百円の会費を払えば誰でも参加は自由である。テーマと言うのも特にない。その時々でしゃべりたい者がしゃべり、話したい者が話す。仕事のなやみ、身の上相談、教育問題など色んなものが飛び出して来る。まとまりはないかもしれない

が、しかし楽しいものであり、しばしば時を忘れて深夜に及ぶことも珍らしくないのである。いささかたよりない会合のようではあるが、ここでの話し合いから生まれ育って来たのが、新幹線の百円のお茶である。

もう四、五年前の事であるが、ある時お茶の話が出て、静岡駅で売られているお茶のまじりが話題になり、このままでは茶の産地静岡としての恥であり、ひいては我々の恥でもあるから、たとえ値段は少々高くなっても、もっと味の良い立派なお茶を売らねばならないかとの話が持ち上がった。まことにその通りで異論はないが、では具体的にどうしたら良いのか。お茶には無縁の素人ばかりだが、こ

こはひとつ、我々で新製品の開発に取り組んで見ようと言う事になった。

早速具体化にとりかかったが、幸いなことに国鉄(静岡管理局)側にも同じ意向が芽生えていた事から計画はスムーズに進み、まず磯谷恵一・鈴木功・名波謙三の三君により「新幹線サーブ」という販売会社が設立された。しかし製品の

品の方は国鉄側から販売価格を百円におさえられたこと、更に家庭用とちがい新幹線の車中・駅構内

での販売という点からの数々の制約を克服しなければならぬ難かしさがあった。

容器だけ考えてみても、軽くて持ち易く呑み易い便利性と、持つて熱くなく、湯がこぼれないという安全性を兼ね備えていなくてはならないのである。一つ一つが大

きな問題としてのしかり、そのたびに話し合いが持たれ、十六日の会でも意見の交換が度々行われた。こうして販売側の条件、利用者側のニーズを一つ一つ検討し、集大成してゆくことでやっとまとまった型を造り出す事が出来た。

容器の素材には保温性にすぐれ、軽く、無害、無臭の発泡ポリエチレンを使い、形はコップ型(構内用)と蒸気機関車型(車中用)の二種とし、共に湯こぼれのないようフタ付きとする。

肝腎のお茶については、従来とは全く発想をかえて「深蒸し茶」を使用する事に踏み切った。「深蒸し茶」とは、簡単に言えば、普通の煎茶より製造にあたって「蒸し」の時間をやや長くしたもので、そうすることによって甘味のあるやわらかい味となり、色も茶色っぽくならずあざやかな緑色になるが、一方では葉がくずれやすく、急須の目づまりをおこしやすくなる

ことから家庭用には一般に不向きとされているものである。だが車内

の欠点にはならない。何よりも良いのは、長時間たっても深くならず変色もしない。熱湯は勿論、冷水でも使用出来ることである。葉はナイロンの袋に一回分づつパッケージすることで湿気を防ぎ、扱いも簡単になることが出来る。更に車中での楽しみにもなるように、容器に工夫をし二つの種類とも指

でつまむ所を設け、そこを押しも、お茶により好みの濃さに加減することも出来るようになっていた。

こうした容器の製造には松永昭(東亜工業)君、包装、パンフレットの印刷などは塩坂武彦君(塩坂写真製版)が担当した。

こわいもの知らずではあるが、素人なるが故に、かえって大胆な発想のもとに新製品の開発を進めることが出来た。

せめて静岡駅だけでもおいしいお茶をの願ひからはじまったこのお茶も、次第にみとめられ今では新幹線の各駅は勿論、北陸線、上越線、東北線へと伸び、ホテル、

野球場でも利用されるようになり新しい静岡の名物として、年間百五十万個余りも販売されるようになった。

小さな会合から生れ育った百円のお茶、言うなればこれはわが60回生が造り出したお茶の味とも言える。新幹線を御利用の際には是非この百円のお茶を御利用の上、御意見を聞かせて頂きたいものである。

(原善三郎)

六二・六三回

われわれ62・63回卒業生も、おかた今年は五十才になる。ようやく、というか、とうとう、というべきか。最近の高齢化社会ではようやく大人の仲間に入れてもらえる年頃と言ったほうが当たっているのかも知れない。

その故かどうか、静岡では良く同期会があるのだが、関東在住の諸兄と集まる機会は今迄ほとんど無く、僅かに関東支部発会式のあった50〜51年頃にチャンスがあっただけというのは誠に淋しい。

名簿を繰って見ても、年賀状で「今年こそは会いたいものです」と数十回書き交し続けている河合卓君や高橋孝雄君の名が無いし、小宮島夫君や吉田和夫君も東京にいと聞いたが載っていない。

そんな次第で、この「各期だよりの原稿を回して来た柴田克朗君(幹事)には、悪い奴に頼んだのが運の尽きと、今年こそは「大

人の仲間入り会」をやって、昔なつかしい顔振れの再会を是非とも実現して貰いたいものである。

小生と同名で、同じコンピュタの仕事をしている勝山弘之君は毎日々々が忙しくてまず無理、ヒョンなことから鈴木惣吉君には時々逢って麻雀を教えて貰っているが、先日も彼のアレンジで大草宏君とゴルフをやって恥をかいたばかり。鈴木君は仕事の関係もあってか、なかなか同期生の情報に詳しく副幹事に適任、数年前も彼と一緒に横浜カントリで回り、39などという驚くべきスコアを軽く出した喜多川隆司君や、会計事務所をやっている白鳥芳夫君あたりは世話役をやる暇がつかれる(失礼!)

かも知れない。同窓会名簿と、浅間神社の百段のところ撮った卒業写真を、感無量で眺めつつ、切なる願いをこめてお願いする次第。

(三枝弘之)

七〇回

毎年のことながら、今春も入学試験期を迎えた。数年前迄は受験生を客観的に観察できたが、近年はそれができなくなった。と言うのは、内申書を見ると、受験生の親にわれわれと同年輩者を多く見

出すようになったからである。

物理的に計算して、何の不可思議なことでもないのだが、わが身が大学受験生をもつ年代に達したことを現実に見せつけられると、どうも穏やかではいられない。つい先年前に学校を卒業したばかりのヤング(?)のつもりが……、これが煩惱というものだろうか。

さて、こうなると、我が身の老化の腹癒せに、現代学生気質にも批判的なことを一言言いたくなるというものであろう。

一口で言えば、最近の学生には何か大切な部分に欠落したところがある。例えば、学力においてもかなり高度の知識を持っている反面、基礎的な知識に欠けている。社会性においてもスマートな社交性を身につけている反面、目上に対する礼儀作法がなっていない。

これらの原因はどこにあるのだろうか。彼らは、我々の青春時代に比べて恵まれ過ぎているのである。我々が飢餓の世代とするならば、彼らは満腹の世代である。物質的にも、精神的にもハングリーであった時代には、人間の最も根源的なものを見つめなければ生きていけなかったのである。その点では我々は幸せな世代と言えるかも知れない。

それに比べて、現代は精神文化

においても情報過多で、自分を真剣に見つめることすらできなくなっているのではなからうか。

ここまで考えると、時代の趨勢が不幸な若者達を作ったのだとして逃げたくなるが、ひる返って、このような若者達の親は我々であることを考えたならば、責任の大半は我々自身であることに驚きを感じる。

我々もそろそろ社会的な責任の反省期に入っているのではなからうか。

川村短期大学教授(福屋武人)

七一回

百年祭式典の折、我々が吉川校長は、格調も高く「印高」の理想を説かれ、そして母校こそ魂のよすがであり、青春の思い出のよすがであると語られておられたのを、71期として我れらなりの感懐も深く、想い出も新たに聴き入ったものである。戦後校史にエポカルな七十五周年を紅願の在校生として祝い得た二十五年前の丁度その折、長身白帽の青年教師として母校に赴任されたばかりの吉川先生の爽やかな温顔は、まこと昨日のこのようにその時オーバーラップされるのであった。そしてそ

れらの思い出と共に今もなお、岳南健児」であり続け得ることの喜びや誇りは、或る先輩が会報の中で「同窓同期の集りは懐しの宴である」と言われておったことと共感するものである。往時の学業などの様々、我が身に不都合な数々は四半世紀茫漠の歲月の彼方に去り、今や不惑と言われる年代に入りて想うは二十五年来夫々の身近にあり続ける夫々の友の輪を連鎖し、同期の輪を掛け合いたいの願望である。そこで安藤、片山、鈴木ら同期同好の友と語り誘い合いて、百年祭の翌日、十人足らずではあったが都合をつけた者達が、藤枝でゴルフをするこゝろになった。折しも其処で、名にし負う67会の先輩諸氏による盛大なる同期会コンペを目撃するに及び、かねてより後藤弘枝(往年の美形をいまだする同期のプリマド)を、71期として我れらなりの感懐も深く、想い出も新たに聴き入ったものである。戦後校史にエポカルな七十五周年を紅願の在校生として祝い得た二十五年前の丁度その折、長身白帽の青年教師として母校に赴任されたばかりの吉川先生の爽やかな温顔は、まこと昨日のこのようにその時オーバーラップされるのであった。そしてそ

雑談も愈々白熱、荒唐無稽の侃諤

ばならない民放テレビ記者として
は、何が出てきても、即刻、ニュ
ース・ヴァリューの判断を迫られ
るわけである。

こんな取材の毎日を送っている
と、受身の取材活動に慣れ切って
しまい、創造的意欲がすっかり減
退してくるのがこわい。

これから春の息吹きを胸一杯に
すって、リフレッシュしなければ
と思っている。(曾根正弘)

七七回

七十七期は関東支部発足の翌年
十二、三名で軽くいっばいやって
以来、何も活動していません。し
かし、いったいどのくらいの同期
生がこの関東にいるのだろうか
名簿だけでも完全にしたく努めて
まいりました。まだまだ不充分と
思われますが、何と百人以上の同
期生が、すなわち、昭和三十六年
卒の約三分の一にあたる人がこの
関東に住んでいることに驚いてい
ます。幹事役を買って出てくれた
杉山氏。何かと面倒見のよい神戸
氏。いつもここに深山氏。酒の
強い小池氏等々、それでもたまに
合って、仲間のことを話しあい、
今年こそ、大々的に同期会を開催
し、本当の幹事を選出いたしたく
考えております。よろしくご協力

ください。(村松貴彦)

八一回

81期生が静高を卒業してから早
や14年経ちましたが、皆様中堅と
して活躍されていることと思いま
す。

卒業以来、同窓会なるものには
とんと御無沙汰しておりましたが
昨年、先輩の誘いで関東同窓会に
出席させて戴き、その盛大さに驚
くと共に、幹事の皆様の御努力に
は頭の下がる思いでした。席上、
卒業以来初めて会った友人もあり
余りの変身ぶりに名前と顔が一致
せず昔話にさかのぼって、漸く思
い出すという一幕もありました。

さて総会に出席して感じました
ことは、いかにも20代、30代の同
窓生が少いということです。関東
同窓会の今後の発展のためにも我
々若い会員が一人でも多く同窓会
の活動に協力し、会を盛り立てて
意義深いものにしていきたいもの
です。

尚、関東同窓会の名簿を見ます
と、81期生は幹事の高山君の御努
力により、約90名の所在が判明し
ておりますが、まだ同窓会に出席
されていない方も多いと思えますの
で、是非一度、皆で集まろうでは
ありませんか。(山崎政博)

ゴルフ

去る十一月八日、秋晴れの伊豆
大仁カントリークラブにおいて、
第五回叩高会ゴルフ大会が、二十
三名参加のもと行われました。

競技の結果は次のとおりです。
優勝 成岡英彦氏(67期)

準優勝 奥沢 徹氏(59期)

三位 荒谷じつ子氏(68期)

今回も安田正弥氏(66期)に色
々お世話になりました。厚く御礼
申し上げます。

なお、今回は新方式を考え、よ
り楽しい集りにしたいと思いま
すので、より多くの御参加をお願
いします。(成岡英彦)

その後の同窓会活動

○五三年十一月八日 ゴルフ大会
詳細別掲の通り

○十二月十八日 幹事会
トッパムムーア社会議室に会長

以下四五名集り五三年のまとめを
行った。又五四年事業について、
名簿の維持訂正促進、同じく年一
回発行を二年一回にする案、名簿
会報の配布は年会費納入者のみと
する案等が出された。
五四年新年会を一月二四日築地

スエヒロ・会費四千円案を決定し
た。又、リクリエーション等の懇
親会を会員制とする件及び椿愛好
会の新設を決定した。

○五四年一月二四日 新年会
築地スエヒロに三三回稲垣直文

氏を始めとして顧問の皆さんと幹
事及び有志の皆さん五十名が集ま
り賑やかに交歓した。お正月姿の
女性会員が華やかに彩り、九二回
の若手清水篤氏が先輩の歓迎を受
けていたのが注目を惹いた。

○三月一日 野球部後援募金
春の選抜野球に出場が決ったの

で急募金を始めた。約一三〇名
の方々から三三万五千円が集まり
本部に送った。

○四月二日 会報編集委員会
関口のカテドラルに月見里、鹿

原、青木、飯田の諸氏が集って会
報七号の編集打合せを行なった。

○五月七日 幹事会
トッパムムーア社会議室に柳川

副会長を中心として四九名集り、
五三年事業報告、同決算報告の案
議した。五三年度収支が赤字であ
った所から、予算の縮少案が検討
され、名簿発行隔年案、会報様式
変更案等を決定し、又、本部の支
部助成金の取扱いは昨年に引続き
保留とした。

五四年総会を六月八日、築地ス
エヒロ、会費四千円と決定した。
又事務局提案の新人歓迎会及び百
年祭ビデオ放映は反対意見の為
中止となった。

○五月八日 会報編集委員会
関口のカテドラルに委員が集り

原稿の整理、七号編集の検討決定
を行った。

○五月十七日 総会実行打合せ
(榎大雄社長室に奥野、月見里、

成岡、朝比奈、梶原の諸氏が集り
総会の具体的準備の実行について
打合せた。

○五月二二日 会報編集委員会
関口カテドラルに委員が集り校

正割付等を行なった。

会 報(第七号)

昭和54年6月8日 発行

編集人 月見里得知郎

発行所 静中・静高
関東同窓会

印刷所 鹿原印刷所

同窓会コンペなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ 伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石橋 正 秋
取締役支配人 安田 正 弥 (66回)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1
TEL 0558-76-2401 (代表)

川 根 銘 茶

三保乃園 山 菅 茶 店

山 菅 章 雄 (53回)
(村松 正 七)

東京都港区南青山1-20-6
TEL 03-403-5760

宝石直輸入元

株式会社 貴 信 貿 易

代表取締役 土 屋 博 (67回)

東京都台東区上野5-18-4
ダイヤオフィス6階
TEL 03-835-3785 (代表)

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶 原 由 三 (67回)

東京都中央区八丁堀2-1-7
神鋼ビル
TEL 03-553-8981 (代表)

建築設計・管理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成 岡 英 彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号
東京都新宿区西新宿7-1-9 規格ビル
TEL 03-363-8604 (代表)

総合広告代理店

株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝 比 奈 正 三 (67回)

東京都中央区銀座6-11-20 黒親ビル3階
TEL 03-572-2431 (代表)
米国事業部
イリノイ州シカゴ市ウエストスクール街2031
ジャパンビジネスサービス社内

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥 野 孝 (53回)
取締役社長 奥 野 進 (56回)
取締役副社長 吉 川 善 吉 (56回)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル
TEL 03-842-6831 (代表)
静岡事務所 静岡市安東2-8-14
TEL 0542-46-9378

建築コンサルタント・設計施行業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大 雄

取締役社長 奥 野 孝 (53回)
取締役営業部長 奥 野 広 (58回)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階
TEL 03-834-5331 (代表)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

ねつ かん 熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67回)

住 所 熱海市春日町12-2
TEL 0557-83-3131

アクセサリースペースと憩いの空間
各種ギフト・ゴルフの商品・記念品

サロン・ド・グリーン

土 屋 晃 康 (67回陸上)

東京都新宿区西大久保3-10 プラザ新大樹ビル
(明治通りと大久保通りの交叉点)
TEL 03-204-1251・1371

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤次郎(42回)

東京都千代田区神田駿河台1-6
TEL (295) 2411 (大代表)

鈴与株式会社

取締役会長 鈴木与平(44回)

清水市入船町3丁目12
TEL (0543) 53-3111 (大代表)

株式会社 講談社

取締役社長 野間省一(44回)

東京都文京区音羽2-12-21
TEL (945) 1111 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1
TEL (833) 2111 (大代表)

保険代理業(特別総合代理店)

株式会社 京華商会

取締役社長 岡本敏興(32回)
専務取締役 今関智吉(47回)

本店 東京都千代田区大手町2-2-1 TEL(241)7751
分室 東京都千代田区丸ノ内3-3-1 TEL(211)7831
大阪支店 大阪市東区淡路町1-12 昭栄ビル内
TEL 06-201-3224

株式会社 東電社

取締役社長 岩波信平(42回)

東京都中央区日本橋2-1-21
TEL (271) 2701 (大代表)

合同酒精株式会社

取締役副社長 堀豪三(44回)

東京都中央区銀座6-2 合同ビル
TEL (571) 8641 (大代表)

本田技研工業株式会社

取締役副社長 川島喜八郎(52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8
TEL (499) 0111 (大代表)

新日本証券株式会社

取締役社長 大石 巖(53回)

東京都中央区日本橋1-17-10
TEL (273) 2311 (大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎(57回)

本社 静岡市国吉田645
TEL 0542 (62) 1111 (代)
東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル
TEL 03 (272) 4651 (代)